

産学官金連携による
地域ブランド化・販売促進への
取り組み

クラスター型6次産業化
函館がごめ連合の活動



「がごめ」の販売促進への取組み

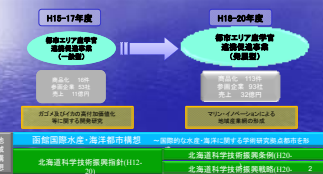
- 平成15～17年 都市エリア産業官連携促進事業
「がこめどいなか」の高付加価値化
- 平成17年 都市エリア成果品販売促進連合会
一都市エリア成果品ブランド認証協議会
- 平成18～20年 発展型都市エリア
マリンバイオクラスター
- 平成20年 函館がこめ連合結成(10社)
7～9月 駅前ビルにてアンテナショップ開設(自費)
- 平成21年4月～アンテナショップ常設(雇用促進事業)
- 都市エリアの情報発信強化を「基盤」に産業官連携で
情報発信機能を生かして来た!

資料5 (布村重樹様資料)



都市エリア事業研究プロジェクトの展開

■漁獲量全国1位の北海道を代表する水産・海洋学術都市



都市エリア研究事業の成果

- がごめ昆布の養殖技術の開発
- フコイダンの構造解析 (F、U、Gタイプ)
- フコイダンの抽出精製技術開発 (特許)
- フコイダンの制癌効果、免疫活性化発明
- フコイダンの細胞活性化 (傷創被覆材の開発)
- がごめ昆布の最適保存・加工条件の解明
- 情報発信の仕方 (制約などの整理)
- 多くのがごめ商品開発 (200品目以上)

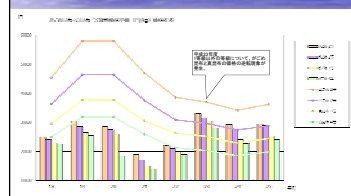
アンテナショップを核とした活動

- ◆ アンテナショップでの商品販売
- ◆ がごめ昆布のPR活動
- ◆ 特徴や機能性などの情報整理・発信
- ◆ 空港、市内外のイベントでのPR販売
- ◆ がごめカフェ、試食会などの開催
- ◆ マスコミの取材対応、取材先の紹介
- ◆ がごめ料理の普及、新メニュー開発協力
- ◆ バイヤーとのつなぎ役
- ◆ 話題性のあるイベントの仕掛け、情報提供

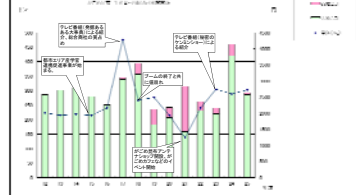
がこめ料理試食会



がごめと真昆布の等級別価格推移



がごめ昆布の市場動向



がごめ昆布の経済波及効果

- ・経済波及効果が拡大(年間20億円以上)
- ・商品の加工度の上昇(付加価値・波及度の上昇)
- ・単価が上昇し、漁業生産額が増加
- ・真昆布に比べ生産が安→漁業者にメリット
- ・加工需要が多く、低等級でも単価が高い
(加工がし易く多種多様の商品が開発され販売)
- ・新規参入し易い(真昆布は関西圏への流通確立)
- ・函館ならではの当当地産品→差別化できる
- ・観光客にもアピール(飲食、加工体験…)

地域づくり活動支援体制整備事業 成果報告会

市館地域における海藻を活用した体験観光並びに
新商品開発に対する中間支援活動



2. 地域づくり活動支援体制の構成

◎構成主体・役割(中間支援の内容)

- ・道南食と観光クラスター型6次産業化推進
道南地域の農水産物や観光資源を融合した新たな商品開発やビジネスの創出を支援

地域資源の消費拡大と雇用創出に寄与	
依頼主体	依頼(中興文館の内部)
(公財)国研地域産業振興財団	各取組の総合調整、商品開発のアドバイス
北洋銀行国研中央支店	販路開拓、売場開拓の専門業者等の紹介
北海道大学大学院工学部科学研究所	体験ツアーの調整・セミナー講演誘致、ライブ館一
北海道農産物販路開拓センター	売場会、売場への出展準備、商品開発のアドバイス

3. 担い手の概要

- ・**図書館がごめ連合**
がごめ配布商品の開発販売業者を中心に39社。
がごめ居るの地域ブランド化・販売促進。アンテナショップねばねば本舗を運営
- ・**フードカン**
道南固有の地域農水産物を活用した商品のアンテナショップを運営

1. 事業実施地域の課題・事業の背景

- ◆ **地域の概要**
 - 函館地域 水産海洋産業の集積
 - ガゾノ昆布等の海藻を利用した商品開発が盛ん
- ◆ **課題**
 - 急速な過疎化・高齢
 - 生産年齢人口の急激な減少
 - 令和初期は2014年度に地域指定
 - 未年の新幹線開業
 - 観光等を呼ぶ地域特産物を活用した産業
- ◆ **事業の背景**
 - 地域特産物を活用した商品開発
 - 地域資源の消費拡大・地域産業



4 事業概要



5. 1. 取組1の概要および成果と課題

取組1：海産活用セミナー開催支援

◎各取組の概要
観光産業振興と観光客の増加に貢献する「海産」の活用促進に向けたフォーラムの開催を支援（7月25日）を実施。

◎構成主体・役割（中間支援の内容）

構成主体	役割（中間支援の内容）
北海道大学	セミナー開催、セミナー開催による支援
北海道庁	料理専門家による調理実演の支援
道庁地域産業振興財団	会場および講演費の調整支援

◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況
観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進	認知度低い	参加者100名以上に増加	観光産業関係者を中心に100名以上参加

◎効果・課題
-1名の講演と10名の調理人によるセミナー料理の試食会開催 → レシピとして発表
-セミナーの開催により海産活用を促進した。 効果・課題
-開催に支障することが発生 → 経費の削減（参加費を減額）

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

5. 2. 取組2の概要および成果と課題

取組2：海産を活用した新商品開発・販路開拓支援

◎各取組の概要
観光産業振興と観光客の増加に貢献する「海産」の活用促進に向けたフォーラムの開催を支援（7月25日）を実施。

◎構成主体・役割（中間支援の内容）

構成主体	役割（中間支援の内容）
北海道大学	新商品開発のアドバイス
北海道庁	商品デザイン・パッケージの紹介、マーケティング調査支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援

◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況
観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進	認知度低い	売上200万円/年可能な新商品開発	観光産業関係者を中心に100名以上参加

◎効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

5. 3. 取組3の概要および成果と課題

取組3：6次産業化事業の広報及びプロモーション支援

◎各取組の概要
観光産業振興と観光客の増加に貢献する「海産」の活用促進に向けたフォーラムの開催を支援（7月25日）を実施。

◎構成主体・役割（中間支援の内容）

構成主体	役割（中間支援の内容）
北海道大学	広報・プロモーションのアドバイス
北海道庁	商品デザイン・パッケージの紹介、マーケティング調査支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援

◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況
観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進	認知度低い	認知度向上し売上増	観光産業関係者を中心に100名以上参加

◎効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

5. 4. 取組4の概要および成果と課題

取組4：「函館の朝食に海産を」月間イベント支援

◎各取組の概要
観光産業振興と観光客の増加に貢献する「海産」の活用促進に向けたフォーラムの開催を支援（7月25日）を実施。

◎構成主体・役割（中間支援の内容）

構成主体	役割（中間支援の内容）
北海道大学	新商品開発のアドバイス
北海道庁	商品デザイン・パッケージの紹介、マーケティング調査支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援

◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況
観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進	認知度低い	認知度向上し売上増	観光産業関係者を中心に100名以上参加

◎効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

観光資源としての「海産」の活用促進に向けたフォーラム

講演、試食会

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

新商品開発・販路開拓

販路開拓

新商品開発のためのマーケット調査

札幌東急百貨店の催事場の様子

仙台 どんきんゴラザ

新商品開発

ギフト商品 がこめしゃぶしゃぶ

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

6次産業化事業の広報

ポスター、ホームページ

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

函館の朝食に海産を

レシピ作成指導

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

5. 5. 取組5の概要および成果と課題

取組5：「がこめ料理を食べ歩き（ねはねフードラリー）」開催支援

◎各取組の概要
観光産業振興と観光客の増加に貢献する「海産」の活用促進に向けたフォーラムの開催を支援（7月25日）を実施。

◎構成主体・役割（中間支援の内容）

構成主体	役割（中間支援の内容）
北海道大学	新商品開発のアドバイス
北海道庁	商品デザイン・パッケージの紹介、マーケティング調査支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援

◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況
観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進	認知度低い	認知度向上し売上増	観光産業関係者を中心に100名以上参加

◎効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

5. 6. 取組6の概要および成果と課題

取組6：「見る・知る・作る」海産収穫・加工体験ツアー支援

◎各取組の概要
観光産業振興と観光客の増加に貢献する「海産」の活用促進に向けたフォーラムの開催を支援（7月25日）を実施。

◎構成主体・役割（中間支援の内容）

構成主体	役割（中間支援の内容）
北海道大学	新商品開発のアドバイス
北海道庁	商品デザイン・パッケージの紹介、マーケティング調査支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援
道庁地域産業振興財団	商品開発・パッケージの紹介調整、市販との連携支援

◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況
観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進	認知度低い	認知度向上し売上増	観光産業関係者を中心に100名以上参加

◎効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題
-観光産業関係者の観光資源としての海産の活用促進を支援した。 効果・課題

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

6. 中間支援による課題と対応

◎中間支援において特に工夫した点
-セミナーイベントを通じて、関係者を巻き込みプレイヤーを増やす。
-マスコットの活用

◎苦労した点、うまくいかなかった点
-担い手のマンパワー不足から予定の遅延

◎協議会の成長につながった点
-デザインノウハウなど担い手と一緒に習得

◎連携することにより達成できたこと、メリット、効果
-大学、金融、行政それぞれの専門性・特徴を生かしたバランスの取れた支援

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

クラスター型6次産業化の課題

- PR活動費の捻出
アンテナショップの自立は難しい
→商品価値が上がれば扱う業者は増える
→ネット販売は特に困難（価格比較）
→地域の為になる→地域宣伝費の負担は誰？
→中間支援体制による支援が欲しい
- 受給バランス調整（売れる時期、育てる時間）
- 大消費地での恒常的販促
- 生産者の高齢化→担い手育成、儲かる産業へ
- 高付加価値化するための研究開発環境整備

がこめメニュー食べ歩き（ねはねフードラリー）

イベントのポスターに関するデザイン指導

新聞掲載記事

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

体験ツアー

道南の収穫見学

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

7. 事業終了後の予定

◎活動費の確保
-自立資金の確保困難→産業支援機関・行政の支援メニューの活用

◎協議会の活動の継続に向けた事業展開
-地域資源を活用した商品開発・販路拡大は北海道の重要課題
-フード特区、食クラスター等の事業と合わせて活動を継続

◎活動の体制
-専体制を維持

◎新たな担い手に対する支援の事業計画
平成27年度 新幹線開業地域・品目拡大を支援
平成28年度 道南全体に地域・品目拡大を支援
平成29年度 28年度から継続

道南食と観光クラスター型6次産業化推進協議会

公設試、中間支援体制の役割

中小企業が新事業に取組むにはハードルが多い！
→ 公設試、中間支援体制の役割

- ニーズ情報の提供、技術相談
- アイデアを具体化する研究開発能力
- 補助金の情報、申請支援
- 商品化のマッチング（製造など）
- プレス発表、情報発信
- 販路開拓支援
- 公設試、中間支援体制の運営の安定化を

水産資源の安定供給のために

- 水産資源の安定化→海水温の変化
- 海藻の重要性(産卵場所、ウニ等エサ、CO2対策)
- 磯焼け対策→マリンバイオの成果も
- 海中環境のモニタリングシステム実用化
- 魚種の変化に対応する流通システムの整備

33

新幹線開業への期待と不安

- 食と観光を結ぶ取組みの推進
- 東北との連携強化(ビジネス・観光・研究)
- サイクルツーリズムへの対応(ハード・ソフト)
- 2次交通ネットワークの整備
- 函館⇔新函館北斗の貧弱さ
- 貨物との並走回避?

34